

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川東高等学校長 小林 為五郎

次のとおり令和2年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

<p><b>【全日制課程】</b>                  (1) 自らの感性や創造性を磨き、自分の人生や社会とのつながりを実感できる生徒                  (2) 自らの能力を引き出し、その能力を将来会う課題の主體的な解決に活かすことのできる生徒                  (3) 心豊かで、リーダーシップを発揮できる生徒                  ★身に付けさせるべき8つの力(旭東DPディプロマポリシー)                  ①認知力 ②分析力 ③思考力 ④表現力 ⑤共感力 ⑥探究力 ⑦行動力 ⑧創造力  <b>【定時制課程】</b>                  一人間性豊かな生徒の育成を期して－                  (1) 基本的な生活習慣の確立に向けて、自ら努力する姿勢をもった生徒を育成する。                  (2) 学習への意欲を高め、進路目標の実現に向けて努力する生徒を育成する。                  (3) 心身ともに健全で、思いやりの心と感謝の気持ちで挨拶と笑顔のある生徒を育成する。</p>
--

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に対する評価】(全日制課程)

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法改善のための資料として授業アンケートの結果を活用した。</li> <li>「思考力・判断力・表現力の育成」をテーマに研究 授業を行った。</li> <li>探究学習「アカデメイア」を1・2年生で実施した。</li> <li>令和4年度を見据え、新しい教育課程を編成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAサイクルの活用実践</li> <li>研究授業の分析にもとづく来年度に向けた方針や改善点が挙げられているとさらに良いと思う。</li> <li>昨年度の改善方策が実現できています。</li> <li>昨年度の改善策を元に、取り組まれていたと思います。ヨーカ堂の自習スペースが利用できなくなることが残念ですが、東高生は柔軟な対応ができると思っています。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の課題となっている「学習評価」を授業アンケートの項目に取り入れる。</li> <li>学習習慣の定着を図るために、今後も週1000分の定着を呼びかける。</li> <li>探究学習のさらなる充実を図る。</li> <li>様々な教育活動をスクール・ミッションにひも付ける。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導集会を実施し、指導および共通理解を図ることができた。</li> <li>現状の中で最大限努力し、活動することができた。</li> <li>関係教員によるいじめ防止対策委員会を迅速に開くことができた。</li> <li>部活動数調整に着手することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自ら取り組む力をつける仕掛け</li> <li>社会人の基礎を身に付けること、特にネット世界も必ず実社会とつながっていることを意識させることが必要だと感じる。</li> <li>昨年度C評価が改善されているようです。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な状況に応じて、迅速に柔軟に対応できるようにしていきたい。</li> <li>旭東DPとの関連も考慮して、臨機応変に活動していく。</li> <li>今後も迅速に対応するとともに、情報発信も適切に行う。</li> <li>顧問と生徒の状況を踏まえて、持続可能なあり方を検討していく。</li> </ul>	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入学共通テストに関わる情報を生徒や保護者に適切に提供することができた。</li> <li>外部講師講演会を実施し、進路意識の醸成に繋げることができた。</li> <li>学年との連携をより充実させる必要があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期に行う。社会経験者を活用(卒業生・異業等)</li> <li>大学の学部・学科も入試方法も多様化・複雑化が進む中、大学進学時に、あえて将来を「はっきり決め過ぎない」ことも含めた進路指導も必要かと感じています。</li> <li>大学入試改革に対する適切な対応を期待します。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試改革に関わる変更等について適切に情報提供し、指導を充実させる。</li> <li>旭東DPやスクールミッションと教育活動をひも付ける。</li> <li>進路指導に関わる業務の見える化を進める。</li> </ul>	

健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校不適応の生徒の対応について、学年との連携が深められた。</li> <li>保健室を通して、生徒の健康及び生活習慣の指導を行い、自己管理能力の向上に努めた。</li> <li>非常災害時の対応の体制の検討を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の健康状態を記録する。(健康手帳)</li> <li>メンタルケアに関しては、今後ますます外部機関・専門機関との連携が重要になると思う。</li> <li>学校不適応の生徒の対応が具体的に明示されていない。改善の方策も昨年度と同じ。</li> <li>コロナ感染者が発生した場合、差別や偏見がないようご指導をお願いいたします。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別支援を組織的かつ適切に行う。</li> <li>保健だよりを定期的に発行し、健康に対する意識をさらに高める。</li> <li>危機管理マニュアルの確認・見直しを常に図る。</li> </ul>	

【学校運営に対する評価】(全日制課程)

評価項目	自己評価の結果	左記に関する学校関係者の評価
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者・教職員アンケートを活用し業務改善を検討した。</li> <li>HP・Twitter・を活用して情報発信を行った。</li> <li>アンケート結果を年度末反省資料として活用し、自己評価を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメントの体系図。「個人」貢献「組織」成果「社会」、セルフマネジメント、組織のマネジメント、事業のマネジメント</li> <li>アンケートを受けた業務改善の見える化が重要です。特に、改善が長期にわたるものは、その計画や進捗を随時公開していくことが信頼につながると思う。</li> <li>昨年度の改善の方策が実現されているかわからない。</li> <li>コロナ禍に即した方法で地域や保護者に情報発信を継続していただきたいと思えます。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が課題意識を持ち、学校改善に結びつけるため、課題解決に向けた議論の機会を増やす。</li> <li>HP等については今年度の取組を継続する。</li> <li>低評価の項目に対し関係分掌等で改善策を検討し、公表・実践する。</li> </ul>	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議については概ね効率的な運営ができた。</li> <li>令和3年度に向けて校内組織体制の見直しを図った。</li> <li>小さな改善は進んだが、まだまだ課題が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マネージャの5つの仕事、仕事を組織化する。仕事のマネジメント 仕事のマネジメント、目標を設定する。詳細を測定する。人のマネジメント、コミュニケーションを 動機づけ、人材育成</li> <li>仕事は増やすのは簡単ですが、減らすのはとても難しいです。コロナ禍を好機と捉え、本当に必要なものを精選する取組を進めると良いと感じる。</li> <li>成果があがっていないとの認識が根強い印象。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務時間を意識した会議の設定を徹底する。</li> <li>改善内容についての検証を行うとともに、一層の効率化を図るための研修を行う。</li> <li>管理職だけではなく教職員ひとり一人の意識を高め、改善策を検討する。</li> </ul>	
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度入学生の教育課程編成にあたり、現行教育課程の実施・評価を行い問題点を改善することができた。</li> <li>適時、服務規律の保持に係る研修を実施し、不祥事防止に向けた意識を高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セルフマネジメント、成果を上げる5つの能力①時間を管理する。②貢献に焦点をあわせる。③強みを知る。活かす④最も重要なことに集中する。⑤成果を上げる意思決定をする。</li> <li>PDCAサイクルは”C(評価)がどれだけ客観的に行えるか?がカギだと感じます。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>校外研修への積極的な参加を促すとともに、研修後の情報共有を行い、学校全体の研修力を高める。</li> <li>啓蒙活動を継続する。</li> </ul>	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評議員会および同窓会・PTA・定時制教育振興会への公開</li> <li>ホームページへの掲載</li> </ul>	

【教育活動に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程委員会の会議を複数回開催し、新学習指導要領による令和4年度入学者の教育課程表を編成した。</li> <li>授業評価アンケートをもとに各授業の改善を行った。研修会開催はできなかった。</li> <li>授業規律については個別の対応が必要だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCAサイクルの実践により、より良い結果を。</li> <li>授業改善の可視化、特に生徒にどう伝えるかが、生徒からさらなる意見を引き出すカギではないだろうか。</li> <li>昨年度より改善が認められるものと思います。</li> <li>なし</li> <li>生徒の個性を観ながら指導を進めることは簡単なことではないと思いますが、生徒にはより深く指導の本意が届くと思います。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も各種検査やアンケートの実施及び検証により、生徒の実態把握に努める。</li> <li>授業評価アンケートにより授業改善の研修、情報交換を行う。</li> <li>年度当初から、面談等の指導を組織的に行う。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で学校祭は中止だったが、他の生徒会行事は生徒が作る行事へと意識させた。</li> <li>指導の徹底により、授業の中抜けが大幅に減少した。</li> <li>スマホのマナーは、大多数の生徒に浸透したが、一部使用する生徒に対する対応で苦慮した。</li> <li>年3回の面談週間及び日常的な個人面談で生徒の悩みを捉え、いじめの兆候を発見し未然防止した。</li> <li>定体連がコロナ禍で中止になった。バドミントン部は、年間を通して安定した活動ができた。文化系は学校祭がコロナ禍で中止になり、成果発表ができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を与え生徒による行動を引き出す。</li> <li>高校や授業でのルールやマナーは全て社会とつながっていることを強く意識させることが重要だと思う。</li> <li>コロナ禍で中止はやむを得ない。成果は出ていると思います。</li> <li>コロナ禍において、生徒の活動制限を強いられた状況下で、活動のモチベーションが低下しないご指導をお願いいたします。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画段階から生徒の主体性を重要視する活動を行う。</li> <li>年度初めの周知を重点的に行い、教員及び生徒の共通認識を組織的に確認する。</li> <li>日常の教育活動において、生徒とのコミュニケーションを大切にし、小さな変化を見逃さない。</li> <li>次年度は定体連全道大会の事務局を担当する。</li> <li>部活動の部員数確保に努める。</li> </ul>	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路講話で元本校教諭（層雲峡ホステルオーナー）を講師に招き、仕事や求められる人物像について話していただいた。</li> <li>4月の合同企業説明会への参加など、早期に進路への意識付けができた。</li> <li>3年・4年間を見通した進路指導の充実が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業先輩から学ぶ。聞き役となり引き出す。</li> <li>キャリア教育の成否は、短期（2～3年）ではなかなか見えません。卒後、長期にわたる追跡（フォローアップ）が可能でしょうか？</li> <li>概ね良いと思います。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の年間計画（進路シラバス）の作成などを通し、計画的にキャリア教育を推進する。</li> <li>合同企業説明会に、卒業予定者（三修制含む）全員の参加を推奨する。</li> <li>進路指導の可視化につとめ、組織的な対応を行う。</li> </ul>	
健康・安全 指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援委員会で話し合いを重ね、組織的に個別支援を実施した。パートナーティーチャーの派遣によって研修が充実した。</li> <li>定時制専用出入口を整備し、入校管理簿の利用を開始したことで、部外者の自由な出入りは減少した。</li> <li>全学年で性格検査を実施した。結果を教員間で共有することで生徒へのアプローチに役立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の適性検査を行うことでより良い指導ができると感じる。</li> <li>コミュニケーションの方法が多様化しているため、個々の生徒に”合った”形も様々だと思う。</li> <li>昨年度より改善されています。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、外部の専門家の助言を受け、個に応じた支援のあり方について理解を深める。面談場所や対応者のやり繰りなど、支援に必要な環境整備を行う。</li> <li>危機管理マニュアルに則り安心安全を確保する。</li> <li>性格検査の変更が必要なため、適切に選定し、指導に活用する。</li> </ul>	

【学校運営に対する評価】（定時制課程）

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
地域に信頼される学校作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの閲覧は1ヶ月あたり1,250件の閲覧者だった。</li> <li>・ホームページでの随時PR</li> <li>・中学校訪問の継続</li> <li>・コロナ禍で保護者との接点を増やすことはできなかった。保護者との連絡をこまめにとり、学校生活の理解促進に努めた。ホームページ等で教育活動の速報を掲載するなど教育活動を見える化した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXを活用し、情報を共有する。</li> <li>・情報発信を通じて双方向のやり取り（一方向ではなく）ができれば、より一層信頼向上に資すると思う。</li> <li>・コロナ禍の中でできることをやっている印象。</li> <li>・なし</li> <li>・「地域や保護者に対する情報発信の強化」については教職員・保護者ともに前年より評価が低下したことは残念でした。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信担当者による発信から、全ての教職員による発信を行う体制づくりを行う。</li> <li>・緊急連絡等での活用を検討する。</li> <li>・より一層のミスマッチ予防に向け、中学校訪問を推進し、教職員の認知度向上に努める。</li> <li>・事前の行事案内や、アンケートの配布時に学校の様子をお知らせする資料提供を行う。</li> </ul>	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明らかになった改善点に優先順位をつけ、優先度の高いものから改善方策を実施した。</li> <li>・定期的に分掌および委員会を実施し、各種教育活動の精度が向上した。校内規程集の改訂に着手した。</li> <li>・2分掌化により、分掌間での業務量平準化に繋がったが、分掌内での平準化には課題が残る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミッションを明確にし、重点施策を共に取り組む。</li> <li>・業務負担の平準化を求めて、分担し過ぎると他者がフォローしにくくなります。複数人が担当できる体制も必要かと思う。</li> <li>・自己評価の結果の改善の方策のコメントは昨年と全く同じだが、昨年度に引き続きうまくいっている印象。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価に基づいた改善方策となるよう、反省会議資料を改善し、重点課題と達成状況の検証を促進する。</li> <li>・各分掌等が組織的・主体的に校内規程集の改訂を進める中で、組織力の向上に努める。</li> <li>・各分掌ごとの業務分担の見直しを図ると同時に、行事等における分掌の枠を超える業務分担の平準化を図る。</li> </ul>	
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートを実施し、授業改善に向けた第一段階の取組が行われた。</li> <li>・特別支援に関する研修会をパートナーティーチャアの派遣により研修の充実を図った。個別支援の質向上により、居場所づくりに繋がった。</li> <li>・不祥事の自己・相互の牽制に向け、職員に対して面談を通して不祥事防止に努め、意識を持たせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の実施に期待します。</li> <li>・多種多様の事情を抱えた生徒に向かうことは大変だと思います。限られたマンパワーで個性を生かしたご指導の継続をよろしく願っています。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスの活用による授業評価の推進および研修会を実施する。</li> <li>・年間計画の作成及び、研修成果の見える化のため、生徒の状況調査の工夫改善を行う。早期に外部の専門家の支援要請を行う。</li> <li>・定期的な事例研修などにより、不祥事の未然防止に努める。</li> </ul>	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員会および同窓会・PTA・定時制教育振興会への公開</li> <li>・ホームページへの掲載</li> </ul>	

3 添付資料

- (1) 自己評価書
- (2) 学校関係者評価書
- (3) 学校評価（保護者）アンケート集計結果